

プログラム名	教師としての実践力向上プログラム
プログラム概要	<p>中学校や高等学校の教師になるためには、教職と担当する教科に関する専門知識と、それらを学校現場で活用する実践力が必要である。教師を希望する学生は、大学の4年間でそれらを身に付けなくてはならない。専門知識については、大学の授業で身に付けることができるが、実践力は課外活動の中で獲得していく必要がある。本プログラムは、教職課程履修学生を対象として、教師としての実践力を獲得させるための活動である。その活動では、まず参加学生が、教師になるためにはどのような実践力が必要で、それを身に付けるためにどのような活動をすべきかを考えることから始める。その後、具体的な活動として、学校ボランティアへの参加、学生による模擬授業の練習会、教員採用試験対策勉強会を実施する。その際、これらの活動を上位学年生が中心の学生主体で運営する。これにより、ピアサポートによる効果を図る。本プログラムにおいて参加学生が行った活動の振り返りを、教職ポートフォリオ内に登録させ、教師になることを目指した自律的な学習スタイルの獲得を目指す。これらの活動に対して、担当教員がアドバイザーとして運営に関わる。</p>
開催場所	教職支援室、もしくは空き教室
実施時期	通年 週1回(各回60~90分)5時限 もしくは6時限
スケジュール概要	<p>コロナ感染症流行の状況が回復するのであれば、当初に計画していた下記の項目について活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動の中心は地域の公民館における教育活動と本学学園祭における地域の小学生を対象とした科学教室・プログラミング教室である。前学期は、それらの活動の企画を行う。企画の際には、教育活動のねらいの設定・教材の作成・指導方法の工夫について、参加学生どうしで議論することを重視する。</li> <li>● 前学期終了後は、地域公民館における科学実験教室を行う。この後に、その振り返りと改善をして本学学園祭における科学教室・プログラミング教室を実施する。これらの活動の全ては、学生が主体的に取り組むものとする。担当教員はアドバイザーとして関わっていくが、各活動の計画の決定は、上位学年が中心となり、参加学生が行う。これにより、学生が主体的に活動し成長していく雰囲気を醸成する。</li> </ul> <p>コロナ感染症流行の状況の回復が見込めない場合は、以下を活動内容として、教育に関する視野を広げることをねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各教科(工業、情報、理科、数学)の任意の単元を題材とし、各メンバーが学習指導要領を考慮した単元計画を立案し、それぞれの計画案について議論する。</li> <li>● その単元計画に基づいて、任意の1コマの学習指導案・教材・板書計画などを作成し実践する。</li> <li>● 模擬授業の際には、授業検討会を行う。</li> </ul>
外部機関連携	特になし
活動例	<p><b>【令和3年度活動実績】</b></p> <p>令和3年度はコロナ感染症の流行拡大のため、例年実施していた学外の機関と学園祭での実践的活動を中止得ざるを得なかった。本プログラムに参加した学生たちは、制限された状況であったが、下記の活動を定期的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 望ましいオンラインでの教育活動とはどのようなものかを調査し議論する。</li> <li>● 小学校から高校の全範囲から任意の単元を選び、各自が模擬授業を行い、全員で意見交換する。</li> </ul>